

建設関係資料の調査で何がわかるか —銀座煉瓦街使用煉瓦を例にして—

銀座煉瓦街(1873年)

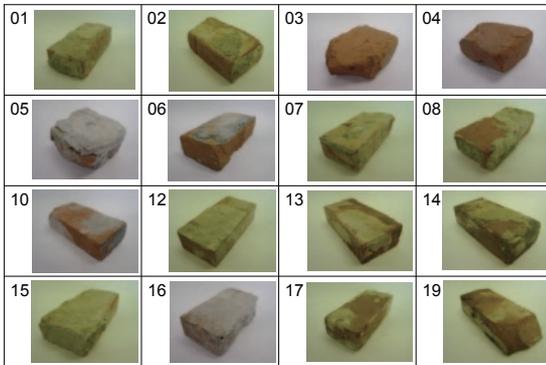


(建築学会編『明治大正建築寫眞聚覽』建築学会、1936、p.17)

No.9に打たれた刻印



国立科学博物館所蔵の銀座煉瓦街使用煉瓦



手抜き成型工具



国立科学博物館所蔵の銀座煉瓦街使用煉瓦

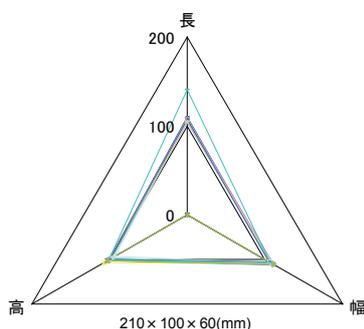
No.	採取地	寸法(mm)			備考	No.	採取地	寸法(mm)			備考
		長	幅	高				長	幅	高	
1	7丁目	220	110	60	*	11	交詢社通り	219	106	58	
2	8丁目 (天国(テックニ))	-	111	60		12		227	109	60	
3	8丁目 (天国(テックニ))	-	110	64		13		223	108	61	
4	8丁目 (天国(テックニ))	-	112	62		14		226	110	61	
5	8丁目 (天国(テックニ))	-	108	62		15		227	112	60	
6	8丁目 (天国(テックニ))	229	109	61	*	16		221	110	61	
7	大通り	223	111	61		17		225	105	60	
8	大通り	231	109	60		18		295	107	61	異形
9	交詢社通り	229	108	58		19		-	111	62	異形
10	交詢社通り	225	109	56							

日本を代表する商業都市・銀座は、明治のはじめ頃、火災に強い不燃都市を目指して、れんが造の西洋建築による街づくりが試みられました。当時の建物は現在では見ることはできませんが、現地で採集したれんがを観察することで、様々なことを知ることができます。

大量に必要なれんがは、規定された寸法に従って日本で製造されました。現在の日本工業規格の規定と比べると、いくぶん大ぶりの寸法でした。れんがの表面を観察すると、刷毛でぬぐったような細かな線が見られ、工具を用いて手で成形されたものであることがわかります。また、「○」状の刻印が打たれ、れんが街のれんがを製造した盛煉社では「○」状の刻印が使われていたことがわかります。

失われた建物であっても、その一部を構成していた部材から、様々なことを知ることができます。

JIS規格との比較



久保田 稔男 (くぼたとしお)

産業技術史資料情報センター センター研究員
理工学研究部 科学技術史研究グループ 研究主幹
1995- 理工学研究部 研究員
2002- 産業技術史資料情報センター 研究員を兼務

共著に『建築のすべてがわかる本』成美堂出版、2007
『建築〈見どころ〉博物館 課外授業へようこそ』彰国社、2006
『建物の見方・しらべ方 近代産業遺産』ぎょうせい、1998